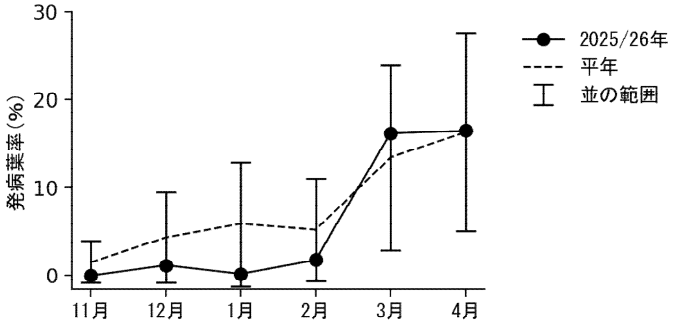
令和　8 年度　　5 月予報

作物	ニガウリ(施設)		地域	八重山群島
病害虫名	うどんこ病			
調査結果	4 月の発生量（平年比）	並		
予　報	4 月からの増減傾向	―		
	5 月の発生量（平年比）	―		
予報の根拠				

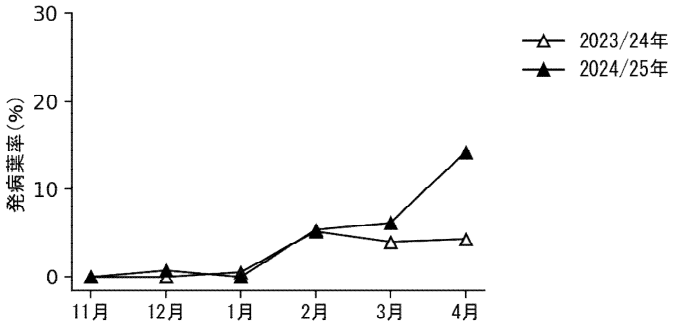
調査結果

発病葉率の推移

＜今期と平年＞



＜過去２年＞



・発生施設率75.0%（平年：63.8%）

防除のポイント

・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。

・過繁茂を避け、透光通風を良くする。

・老葉や発病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。

・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

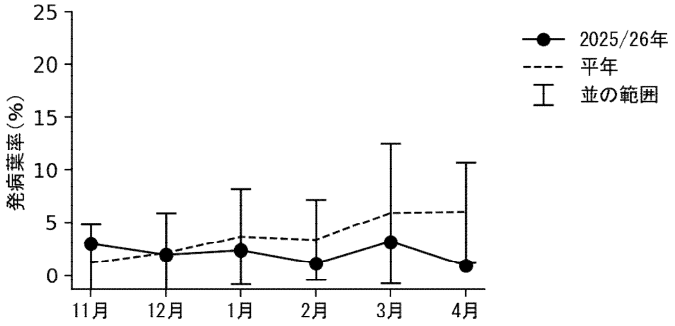
令和　8 年度　　5 月予報

作物	ニガウリ(施設)		地域	八重山群島
病害虫名	斑点病			
調査結果	4 月の発生量（平年比）	やや少		
予報	4 月からの増減傾向	―		
	5 月の発生量（平年比）	―		
予報の根拠				

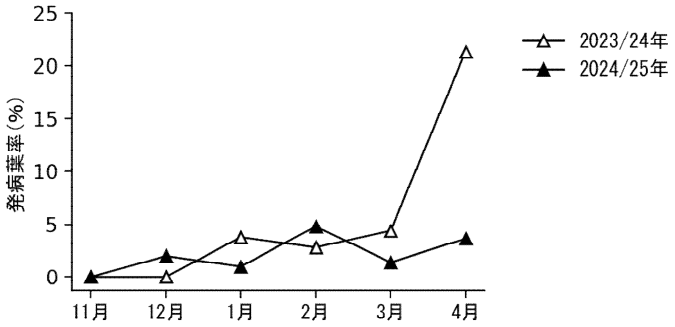
調査結果

発病葉率の推移

＜今期と平年＞



＜過去２年＞



・発生施設率50.0%（平年：62.2%）

防除のポイント

・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。
・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
・老葉や発病葉は伝染源になるので、施設外に持ち出し処分する。
・雨漏りする場所で発生が多くなるため、ビニールの破れ等は補修する。

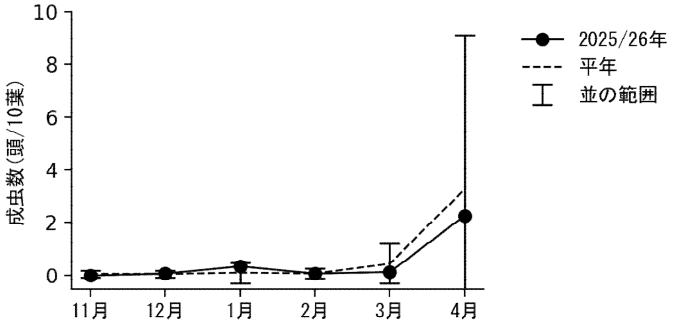
令和　8 年度　　5 月予報

作物	ニガウリ(施設)		地域	八重山群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	4 月の発生量（平年比）	並		
予報	4 月からの増減傾向	―		
	5 月の発生量（平年比）	―		
予報の根拠				

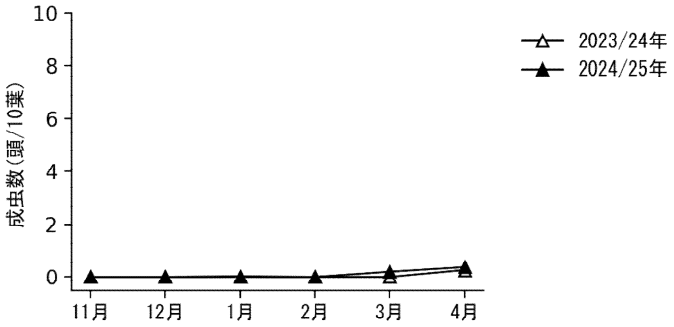
調査結果

成虫数の推移

＜今期と平年＞



＜過去２年＞



・発生施設率100%（平年：61.7%）

防除のポイント

・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。

・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。

・施設の出入口や天窓は目合い0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。

・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

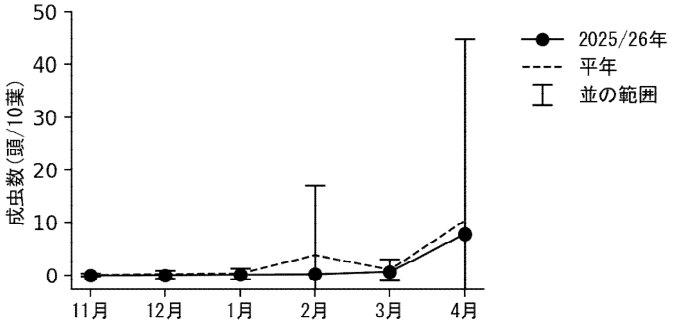
令和　8 年度　　5 月予報

作物	ニガウリ(施設)		地域	八重山群島
病害虫名	タバココナジラミ		成虫	
調査結果	4 月の発生量（平年比）	並		
予報	4 月からの増減傾向	―		
	5 月の発生量（平年比）	―		
予報の根拠				

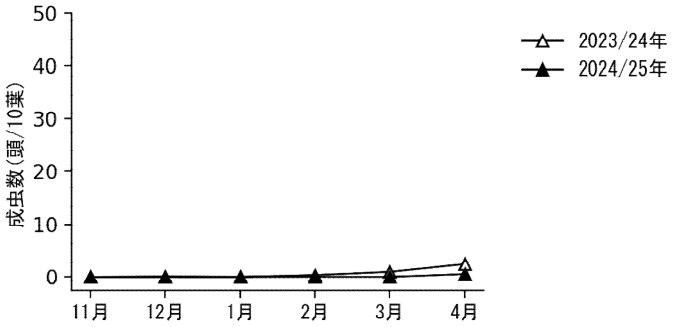
調査結果

成虫数の推移

＜今期と平年＞



＜過去２年＞



・発生施設率100%（平年：48.9%）

防除のポイント

・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。

・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。

・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。

・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

幼虫

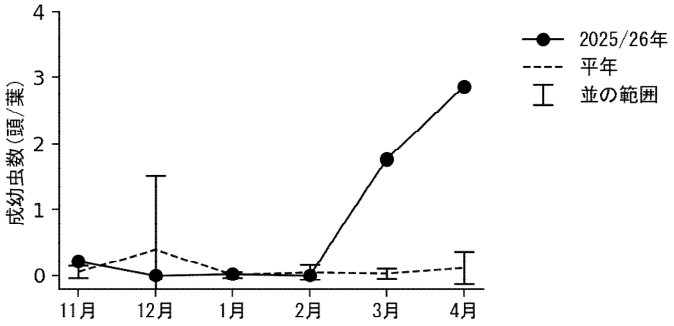
令和　8 年度　　5 月予報

作物	ニガウリ(施設)		地域	八重山群島
病害虫名	アブラムシ類			
調査結果	4 月の発生量（平年比）	多		
予報	4 月からの増減傾向	―		
	5 月の発生量（平年比）	―		
予報の根拠				

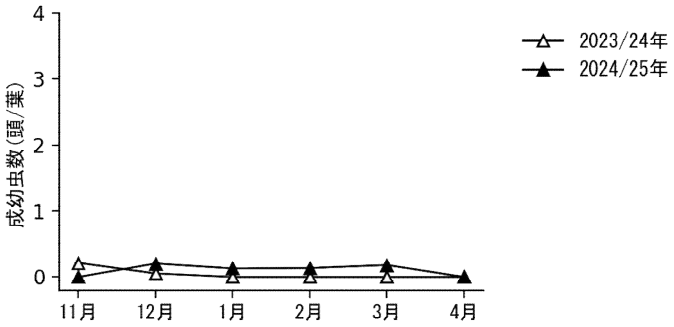
調査結果

成幼虫数の推移

＜今期と平年＞



＜過去２年＞



・発生種：ワタアブラムシ

・発生施設率25.0%（平年：17.0%）　　※一部ほ場で多発

防除のポイント

・アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ輪点ウイルス等を媒介する。

・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。

・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。

・早期発見に努め、薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。